

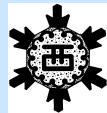
学校だより

潮風

令和4年度
第12号
令和5年
2月28日

教育目標 「伸びる喜びを見つけよう」

学ぶよろこび (知) 助け合うよろこび (徳) やりぬくよろこび (体)



岩内町立岩内西小学校 TEL 62-0263

<http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/nishisyo/>

親の想い 次への備え 子の成長



岩内西小学校長 古館 昭仁

明日から3月となります。「1月は行く・2月は逃げる・3月は去る」と言われるように、早いもので年が明けてからもう2か月が経ち、令和4年度もあと1か月で終わりとなります。

さて、1月23日から2月14日まで、3年ぶりとなるスキー学習を行いました。いつもは低学年が行う中庭を利用したスキー学習も、今年度はどの学年も一度以上は体験し、準備や心得を習得しました。その後で、スキー場でのスキー学習を3年生以上の学年は2回（2年生は1回）行いました。私も指導者として全部で9回スキー場での学習に参加しました。はじめはおそろおそろ滑っていた子ども、何度も挑戦してコツをつかみ、スムーズに滑る姿をたくさん見てきました。子供は滑ることができるようになってうれしくてまたやりたくなります。緩やかな坂で少し滑れるようになると、「またやりたい」「次も挑戦したい」と前向きな気持ちになり、難しいと感じていた急な坂でも滑ろうと、さらにチャレンジし、どんどん上達します。これは、けっしてスキー学習だけでなく、他の学習でも同じだと思います。「楽しい」「面白い」となると「またやってみたい」「より上位レベルに挑戦したい」となり、自分から進んで意欲的に学習します。我々大人がいかに子供にそのような気持ちを持たせ続けるかが大切です。また、スキー学習では延べ31人の保護者の方と延べ19人のスキー連盟の方にボランティアとして、たくさんお世話になり大変助かりました。ありがとうございます。丁寧な指導やきめ細やかなお手伝いで、子供の確実な上達と安心・安全に学習を進めることができました。スキーを履いても履かなくても両方お手伝いは出来ますので、次年度も多くのご協力をお願いいたします。



親の願いや想いは、昔から、子供の健やかな成長です。植物学者である田中修氏は「植物たちは、タネができあがると強い子が育つように、子供たちを新天地へ放り出します。どんな環境に出会っても、強く生きてほしいとの思いが込められているのです。新天地へ放り出された子供たちも、その期待を担って親元を離れていきます。植物たちの"親離れ"、"子離れ"のよさはすごいのです。」とおっしゃっています。この1か月は次の学年（6年生は中学1年）へ向けての準備が大切になります。次に備えるためには、今を知ることです。この1年間で、子供は随分と大きくなりました。外見ではすぐにわかりますが、見えにくい心の成長はどうでしょう。それは子どもの行動に現れています。友人関係はどう変化したでしょうか、読書の傾向は、言葉遣いは、趣味やこだわりは、親への言葉遣いは等々、子供の何気ない様子からそのように見ることも次の備えと言えます。「うちの子は幼いから」「分かっているから」と思っていると、思わぬ変化に驚かされることもあるでしょう。「子供を理解しようとする」ことはけっして間違っていないです。しかし、「しつけ」とは、親が「子供を理解する」のではなく、子供に「親を理解させる」ことが大切なのです。ですから「ダメなことはダメ」の言葉が生きるのです。少年期の子供にはよく「手は離しても、目は離すな」と言われます。子どもと本気で向き合い、うるさがられても子供の行動から目を離さないことが大切です。

お子様の成長のことで、何か気になることがございましたら、担任をはじめ、本校教職員がいつでも相談にのりますので、学校までお知らせください。